

小学校低学年の部

特選 課題図書部門

「ゆうきをもつてつたえたい」



大野町立大野小学校 一年

大たき なつき

わたしは、「ごめんね。」となかなかいえません。でも、じかんがたつと「ごめんね。」といえます。だから、はなちゃんも「ごめんね。」とすぐにいえなかったから、いっしょだなとおもいました。

はなちゃんが、

「おばあちゃんなんて、きらい。」

といったのは、ゆうちゃんのことをしらないのにちゅういをしたからです。でも、それだけじゃなくて、いろいろいやなことがあったからです。おやつのおとにハブラシをわたされたり、おふろあがりにおふろでちゃんとふいてきてといわれたり、がつこうからかえってきたらすぐにしゅくだいをひろげてといわれたからです。いつもはしていないのに、やらなといけないからいやだったのだとおもいます。

わたしも、ともだちとあそんでいるとき、じぶんのいけんでやりたいけど、あいてのやりたいことにつきあっているこ

とがあります。そんなことがつづくと、いやなかんじがします。そして、いっしょにいたくなくなって、だまっていがてしまいます。ほんとうは、にげたくありません。やりたいことをいって、なかよくあそびたいです。でも、あいてのいけんがなんとかえってくるかわからないので、ふあんになりまです。はなちゃんも、「いやだ。」というきもちをつたえとおおばあちゃんがきずつくとおもって、いえなかったのだとおもいます。「ごめんね。」といったり、おもっていることをあいてにつたえたりすることはたいせつだけど、ゆうきがたくさんいります。なので、わたしもあまりできていません。だけど、ゆうきをもつて、一かいおもっていることをいってみようとおもいました。どうしてかという、わたしのあそびたいことがずっとあいてにきづいてもらえないからです。もし、うまくいかなかったら、おかあさんやおとうさん、せんせいにそうだんしたいとおもいます。

ささき みお 作・絵

『ごめんね でてこい』

文研出版

#### 【講評】

「ごめんね」という言葉の重みや大切さを考え、自分の体験を基に主人公の気持ちに共感しながらも自分の考えが書いているのがすばらしかったです。